

にぎわい創出

旧忍町信用組合店舗活用他公民館のWi-Fi環境について

田中 和美
(公明党)

旧忍町信用組合店舗舗力フエオープンから8カ月。文化財保存の目的は達成継続されてはいるが、広く市民に愛され、かつ、にぎわい創出には課題がある。時に通常より短時間営業・定休日以外の連休等により訪れた際、閉館で残念だった、お昼時に利用したがスタッフの子どもに落ち着けなかった、夕方仕事帰りの利用はできない等々、様々な市民の声を聞く。

問 稼働時間が少ない認識、問題意識はあるか。

答 にぎわい創出の観点から営業時間は長い方が好ましいと認識しているが、従事者のお子さんの幼稚園や学校等の都合により、通常営業に対応できていない現状がある。随時改善を求めてきたが、運営団体には、さらに努力を促していく。

問 多くの市民や観光客

が利用可能な憩いの場として、夕方から別団体が運営し、昼間との2団体体制を目指せないか。

答 このカフェは子育て世代の活躍する場であることを踏まえ、2団体体制の導入には課題も多いが、調査研究していく。

問 さらなる活用策やアンケートなどの考えは。

答 本年5月より毎月第4土曜日の午後、「テアトルヴェール」と銘打ちフラダンス、音楽や夜桜イベント、俳句や講演会等を開催し、芸術文化の発信拠点を目指す。また、アンケートの実施等、広く市民の声を伺っていく。

問 ●公民館のWi-Fi環境
設置予定はあるか。

答 現時点では設置予定はないが、利用者ニーズや費用対効果を踏まえ調査研究していく。

【その他の主な質問】

○幼児教育無償化制度

市長の政治姿勢

市長の給料50%削減に議会は反対多数で否決

高橋 弘行
(改革・創生の会)

問 今回の市長選では、公約である給料50%削減について市民は大いに賛同し、その結果、新しい市長が誕生した。公約とは市民との約束であり、信頼の上に成り立っている。今回、信頼関係が議会の反対で否決され、市長は減額したくとも減額できない。そこで改めて市長の見解を聞きたい。

答 民意に反する結果となったが、かねてより、市長の退職金は近隣市と比較して高すぎると指摘してきた。そこで市長選に当たり、市長給与の50%カットを公約に掲げ当選したこと、公約実現のために、去る臨時議会において減額案を提出した。結果として否決されたことは、約束を直ちに実行できず、じくじたる思いである。

次に、議員に対する見解であるが、議員各位は

それぞれの政治信条に基づき反対されたものと思うが、選挙で示された民意であるため、今一度、是非考えていただきたい。また、自身の説明も不十分な面も多々あったと深く反省している。過日の臨時議会の議論の中で、市民に誤解を与えかねない発言が幾つかあった。即時に反論したかったが、議会の制度上、討論への反問は認められず、説明も反論もできなかったことは、誠に不本意である。減額に対して違法性があるかのような議会発言は、大変疑問に感じる。

次に、減額数字の積算根拠であるが、強いて挙げれば、生活を維持し家庭を守っていくための費用としては十分であると判断したものである。参考までに4年間の減額の合計は、4192万8403円となる。

魅力的なまちづくり

行田市産業交流拠点整備について

加藤 誠一
(黎明21)

問 産業交流拠点整備計画の進捗状況は。

答 計画用地の転換等、国・県との調整及び参加希望事業者の意向調査等の段階であり、開業にはより多くの時間を要する。

問 中核施設の道の駅計画が国交省の重点道の駅候補となったメリットは。

答 国・県等の関係機関との意見交換や協議の場で、種々助言等をいただき課題解決に役立てたい。

問 隣接する国道17号バイパス沿いには熊谷市が道の駅を計画しているが、近隣市の施設との関係、差別化をどう考えるか。

答 近隣施設とは機能の補完やサービス向上の面で連携強化が重要であると考える。また、熊谷市は「食」を、本市は「健康」をテーマとしており、差別化は可能と考える。

学力向上の取り組みは。学力向上の取り組みは、教科により同等か若干下回っており、指導力向上と学力定着に向けて、うきしるスタンダードの活用、パワーアップサポートの配置に努めている。

問 中学校運動部の所属率、活動日数、時間は。

答 生徒の81.2%が所属し年間約180日、1日約2時間活動している。

問 種目別の開設状況と学校規模との関係は。

答 市内8校中、野球8校、男女バスケット及び女子バレー7校、サッカー6校、男女テニス及び男女卓球5校、男女柔道及び女子ソフト1校であり、学校規模も影響している。

問 ●教育環境の整備
部活動が無いことを理由とした学区外への越境通学を認めているか。

答 現時点では認めていないが、近隣市の状況等を勘案し、検討したい。